

## 2012年12月1日 第31回市民能楽講座 能「融」公演

ご挨拶

仙台金春会 本屋禎子

この公演は昨年3/11の大震災の影響で大幅予算見直しの中で行われた最初の能公演です。仙台市・仙台市文化事業団・仙台市能楽振興協会主催です。

本日の番組をご案内致します。

まず最初の仕舞「鶴亀」は行事最初に相応しいおめでたい曲です。古来日本人には鶴亀は縁起がいいとされ、これは寿ぎの舞です。

シテは地元仙台金春会太田直道でした。

次に独吟「小萩」です。「小萩」は源氏物語桐壺の巻に、桐壺の更衣が娘小萩に心を残してなくなり、そのことを主題にして作られた謡本で、桐壺の更衣が宮城野に現れ舞います。本日の能「融」のシテ金春安明金春流80世宗家が復曲して下さいました。

この謡本は金春宗家に一冊と仙台伊達家（宮城県図書館伊達文庫）に二冊と法政大学に一冊しか存在しない貴重なものです。伊達政宗は桜井八右衛門を奈良の金春禅曲（八郎安照）に学ばせたことから、以来伊達家と金春流のつながりがあるのです。金春安明師は、12年前母の霊前に「小萩」を復曲し手向けて下さいました。

お耳に止まりましたか 「消えにし露の宮城野や小萩が本をとひよるも 今ひとしおに露けくて」と仙台になじみの地名もよく出てくるものです。

仙台に「小萩物語」としてのいくつかの伝説、史跡が残っており、小萩塚「露無の里」や福澤神社等の小萩所縁の史跡などがあります。皆様この機会に地元の能史跡をどうぞ訪れて下さいませ。

「小萩」クセ独吟は仙台金春会本屋禎子でした。

本日の狂言と能について

狂言と能は1対に演じられることが多く、狂言は喜劇、能は悲劇といわれたりもします。また狂言は人間の明るい能動的な側面を表し、能は人の儂さ、愚かさ、人生の無常さを表すともいわれます。物語の構成からみると、狂言では物語の筋や順序を追うのに対して、能では局所局所

の深化・深めることが大事にされます。分かりやすさの点では狂言は分かりやすく、能は分かりにくいとは申しません。狂言はすぐにわかるが、能はじっくりとゆっくり分かるとしておきましょう。ということなので狂言のあら筋や事の成り行きを説明するのは邪道です。それは後ほどの見てのお楽しみです。「をばがさけ」という演目でおばさまが出て来てお酒のお話です。随分荒っぽい言い方になりました。仕手は大蔵流 大蔵千太郎です。

15分の休憩をはさんで本日の能「融」です。

本日の仕手金春安明金春流 80 世宗家は 2011/3/11 は仙台のお稽古場で被災されました。6 日間を電気ガス水道のない中で過ごされ、東北大学の放射線研究者の家族が山形に避難したとの情報があったので雪の中を真夜中に 48 号線山形方面は渋滞のため、放射線の危険を覚悟の上、南下し郡山から新潟経由で東京に戻られました。この経緯があったので本日の能を安明師ならお引き受け頂けるだろうと仙台市能楽振興協会としてお願いして今日の公演が実現したわけです。

能「融」は世阿弥作で光源氏のモデルといわれています。旅の僧が都に上り陸奥塩竈の景を写した河原の院に仲秋の名月を賞し融の大臣の昔を偲び、荒れ果てた現在の有様を嘆きます。融は嵯峨天皇の皇子で承和 5 年(838)に源性を与えられ臣籍に下っています。貞観 14 年(872)に左大臣になり、寛平 7 年(895)に 73 歳で没しています。822-895 ということは融は(869)の貞観地震津波を知っていて、(47 歳の時)今日のように情報網は発達していなくても当時でも悲惨な東北の様子は伝わったことでしょう。能「融」には難波の海から毎日汐汲みをさせ陸奥塩竈を模して作られた融邸のことが描かれています。これは今日の皆様方と同じく被災地への思いを何かの行動として表した結果ではないかと私は考えます。今日は大阪、名古屋、東京と遠くから来て下さり、この後被災地で何かボランティアをして帰りたいと言っておられる方もいます。

能「融」のキリの最後の部分に「あら名残惜しの面影や、名残惜しの面影」とあります。今回の 3 / 1 1 大震災の犠牲者への鎮魂の思いを表し、残され生かされた私たちに出来ることは何かを考えながら心静かに能「融」を鑑賞致しましょう。